

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	224人	社会	224人	数学	223人
	理科	223人	英語	223人		

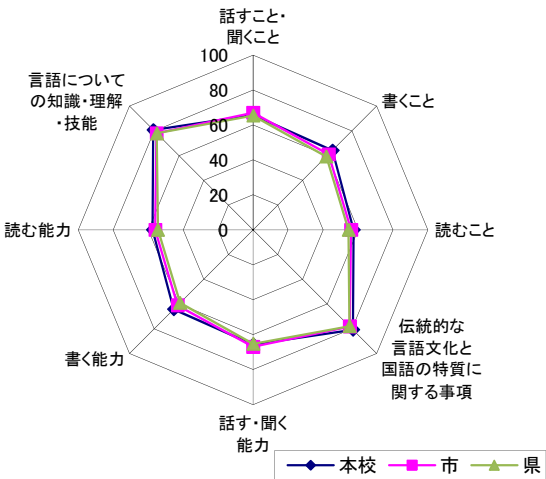
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	65.6	67.0	65.3
	書くこと	64.2	61.1	59.2
	読むこと	57.5	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.8	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	65.6	67.0	65.3
	書く能力	64.2	61.1	59.2
	読む能力	57.5	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	80.8	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

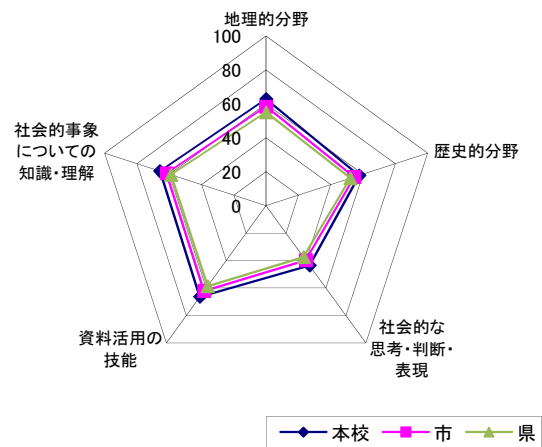
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●県平均より0.3ポイント上回っているが、市平均より1.4ポイント下回っている。	・「自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く。」という項目が落ち込んでいる。合唱を聞いてもらうだけでは交流にならないということを理解し、文章に書くことができない生徒がいる。目的を達成するのに何が大切かを考えながらまとめていけるよう助言していく。
書くこと	○県平均より5ポイント、市平均より3.1ポイント上回っている。	・文章の書き方の工夫を答える問題は、県や市よりポイントは高いものの正答率が低い。他人の文章を評価する力が付くよう指導助言していく。 ・授業で文章を書く機会を多く設け、文章を書くことに慣れさせていくとともに、意見と根拠を明確にした文章が書けるよう指導していく。
読むこと	○県平均より3ポイント、市平均より1.5ポイント上回っている。 ○説明文・文学作品ともに県・市を上回っている。	・説明文では、文章の構成について、接続語の知識を生かしながら読み取る力を付けさせるとともに、事実(具体例)と意見の表現の違いを繰り返し指導していく。 ・文学作品では、場面の展開や人物描写を踏まえて、心情の読み取りができるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県平均より2.8ポイント、市平均より2.6ポイント上回っている。 ○言葉の学習に関しては、県より7.9ポイント、市より5ポイント上回っている。 ●漢字の書きは県・市より上回っているが、読みは県・市より下回っている漢字があった。	・新出漢字の練習及び漢字テストを定期的に行い、力をつけさせていく。 ・言語事項に関しては、繰り返しの指導が必要である。また、知識を活用できるよう短文等文脈の中での指導を重視していく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	62.8	58.4	55.0
	歴史的分野	57.6	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	43.6	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	66.5	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	65.8	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

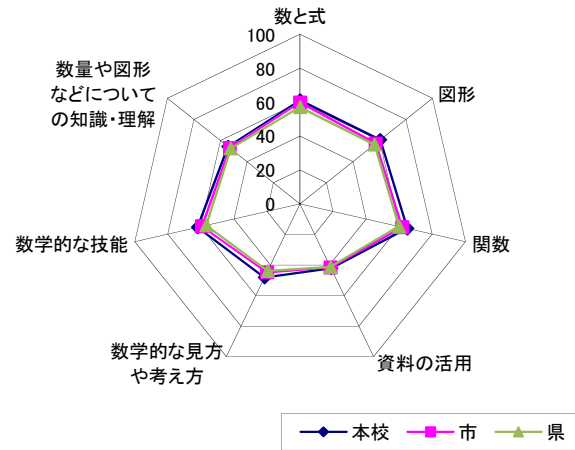
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○平均正答率が62.8%と、市・県の平均を上回った。 ●「世界の地域構成」「世界各地の人々の生活と環境」のような世界を全体的に捉える問題の正答率は、ともに7割を超えているが、「世界の諸地域」のような地域を詳細に捉える問題は、アフリカ57.7%、北アメリカ42.2%であり、正答率が前者に比べ低調である。	知識を身につけるだけでなく、各州の地域的特色に対する関心を高め、統計資料や、主題図、写真などを適切に活用しながら、図表などにまとめさせるような活動を授業の中でも多く設けるようにしたい。
歴史的分野	○平均正答率が57.6%と、市・県の平均を上回った。 ●古代から中世に時代が進むにつれ、正答率が下がっている。	時代が進むにつれ、人物の関わり、政治制度、社会生活などが複雑化するため理解が難しい生徒が多くなってくる。資料をふんだんに使い、日常生活に絡めながら授業展開をしていく。既習内容との関連を明確にししながら、知識の定着を土台とし、考えたことを周囲にわかりやすく発表させるような取組をしていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.1	59.8	57.0
	図形	60.5	57.1	56.1
	関数	64.9	61.8	59.8
	資料の活用	42.1	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	48.2	44.9	43.9
	数学的な技能	62.0	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	54.3	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

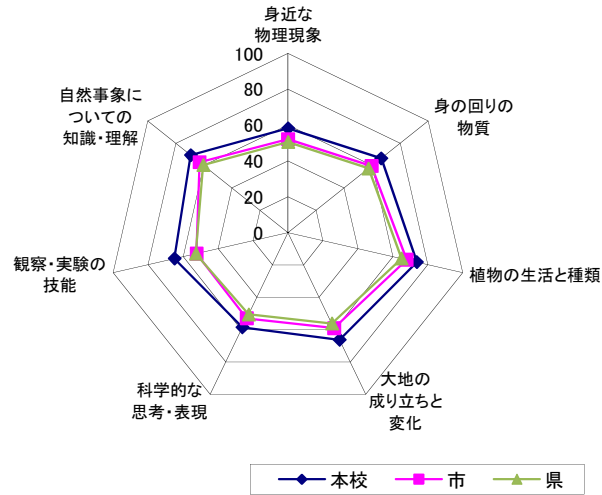
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の計算はほぼ100%の正答率である。一次式の計算は市の平均を6.4ポイント上回っており、良くできている。 ●一次方程式の計算では市の平均を2.7ポイント下回っており、確実な定着が必要である。	・授業の始めなどに計算練習などを取り入れながら、基礎的な計算力の確実な定着を図る。
図形	○作図問題において市よりも8.8ポイント上回っており、作図の方法が定着している。 ●図形の移動が市の平均を少しだけ下回っている。また、三角形の移動についての説明についての無解答者が多い。	・記述式の問いに対して苦手意識を払拭できるようにするために、考え方を記述させる問題を多く取り入れることで改善を図る。
関数	○全体として市の平均を上回っている。反比例の関係を問う問題について良く理解できている。 ●比例の関係を式で表すことについて苦手意識を持っている生徒もいる。	・身近な事象について考察するなど、様々な場面で関数が生かされていることを感じられるようにするとともに、基礎基本の確実な定着を図れるよう、問題演習を行う。
資料の活用	○市、県の平均をわずかに上回っている。階級値については良く理解できている。 ●相対度数の理解があいまいである。	・課題テストなどを実施し、学習内容の確実な定着を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	58.2	52.1	50.5
	身の回りの物質	66.5	59.6	57.4
	植物の生活と種類	73.7	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	66.3	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	58.6	53.1	50.6
	観察・実験の技能	65.0	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	69.4	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

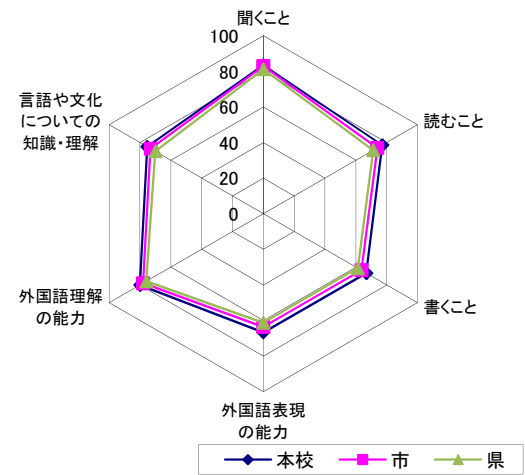
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○この単元における本校の平均正答率は、市より6.1ポイント、県より7.7ポイント上回っている。 ○特に、濃度の計算では県より14.7ポイント、顕微鏡の手順では県より11.4ポイント上回っている。 ●光の反射については、市より0.3ポイント下回っている。	・引き続き基本的な用語の理解と定着を図る。 ・物理現象の実験では、視覚化を意識して実験を行う。また、紙面上にて、作図などを行うことで定着を図る。
身の回りの物質	○この単元における本校の平均正答率は、市より6.9ポイント、県より9.1ポイント上回っている。 ○特に、溶解度の計算では県より17.5ポイント、ガスパーマーの手順では県より14.2ポイント上回っている。	・引き続き、基本的な用語の理解と定着を図る。 ・引き続き、実験から導き出されるデータを集約し、分析することを繰り返し行う。
植物の生活と種類	○この単元における本校の平均正答率は、市より5.9ポイント、県より8.8ポイント上回っている。 ○特に、光合成の対照実験では県より15.4ポイント、植物の分類では県より13.2ポイント上回っている。	・引き続き、基本的な用語の理解と定着を図る。 ・引き続き、実験から導き出されるデータを集約し、分析することを繰り返し行う。
大地の成り立ちと変化	○この単元における本校の平均正答率は、市より7.2ポイント、県より10.0ポイント上回っている。 ○特に、鉱物の種類では県より19.6ポイント、体積環境の推定では県より17.9ポイント上回っている。 ●火山灰と火山の形については、市より3.7ポイント下回っている。	・引き続き、基本的な用語の理解と定着を図る。 ・火山灰と火山の形が結びつくように、実物と視覚的な資料を効果的に使うことで定着を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	83.5	82.9	81.2
	読むこと	77.1	73.9	71.2
	書くこと	66.7	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	66.7	63.6	61.2
	外国語理解の能力	80.1	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	75.4	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の平均正答率は市の平均を0.6ポイント、県の平均を2.3ポイント上回っている。A-D層の差が最も少ない領域である。 ○「対話文の聞き取り」の正答率は、90.8%であり市の平均を0.2ポイント上回っている。 ●「対話文の聞き取りと応答」の正答率は市の平均を0.1ポイント下回っている。また、A-D層の差が67.3と大きい。	・英語を正しく聞き取れるよう、単語や文の正確な発音を指導していく。 ・教員が授業の中で積極的に既習の単語や表現を使って指示や会話をすることで、聞き取りに慣れさせる。 ・応答する力を身につけさせるため、簡単な質問を聞いて答えるなどの活動を取り入れる。
読むこと	○本校の平均正答率は市の平均を3.2ポイント、県の平均を5.9ポイント上回っている。 ○「長文の内容理解」の正答率は市の平均を8.4ポイント上回っている。 ●「長文を読み、下線部の内容を読み取る」設問では、市の平均を0.6ポイント下回っている。 ●「人称代名詞の所有格」の正答率は市の平均を2.0ポイント下回っている。	・読解の授業では、すぐに訳すのではなく、まず内容に関する簡単な問題を解くなどして、文章の内容をつかむ練習をする。 ・人称代名詞など基礎的な表現は、授業で扱う文章や活動にも多く使われているため、その都度確認していく。
書くこと	○本校の平均正答率は市の平均を3.1ポイント、県の平均を5.5ポイント上回っている。 ○●「場面や条件に応じた英作文」の正答率は市の平均を5.0ポイント上回っているが、A-D層の差が69.3と大きい。 ●「テーマに基づく英作文」の正答率はA-D層の差が79.2と大きい。 ●「語彙の理解」の正答率は市の平均を0.3ポイント下回っている。この設問のように短答式で出題されている問題の正答率は60.7%と市の平均を0.3ポイント下回っており、苦手であることがわかる。	・書きたい英文があっても単語がわからない生徒が多い。月に1回程度単語テストを実施し、正しく書けるよう指導を行う。 ・授業のまとめ活動などで英作文をさせるなど、生徒が英作文に慣れるよう指導していく。

※ 学力層について
A層、B層、C層、D層とは、教科に関する調査結果を到達スコアで4層に分け、上位から順に25%ずつをそれぞれを A層、B層、C層、D層としたものです。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

<学習時間について>

○平日で「2時間以上」が41.3%であり市の27.3%県の31.6%と比べて大きく上回っている。昨年度は27%であった。休日でも「3時間以上」が24.2%であり市の15%県の16.4%と比べて上回っている。昨年度は13.4%であった。

●平日で「30分未満」は7.6%(昨年度6.8%)。休日で「1時間未満」は17.9%(昨年度28.9%)であり市や県と比べてやや少ないが今後減らしたい。

●平日で「1時間未満」が23.3%(昨年度32.8%)。休日で「2時間未満」が47.9%(昨年度62.1%)である。特にD層の生徒が占める割合が高い。

○「学習塾(家庭教師)」での勉強は、59.2%(昨年度54.3%)で市の52.9%県の50.6%を上回っている。

●「宿題の量」は、24.2%(昨年度18.3%)が多いと感じており市の18.1%県の18.5%を上回っている。特にD層の生徒では41.1%が多いと感じている。

<読書について>

○「時間や冊数」は市や県と比べてやや多く、特にC層の生徒が多い傾向にある。

<テレビ>について

●平日で「2時間以上」が52.1%(昨年度52%)で市や県と同様だが多すぎる。C層D層の生徒が占める割合が高い。<ゲームについて>も同様の傾向である。<携帯やスマホ>を持っていない生徒は34.1%(昨年度24%)であった。

○「家の人と学習について話をしている」の肯定割合は80.7%(昨年度83.6%)と高いが、「A-D層の差」が25%と大きい。

●「学校の宿題はやりたくなる内容だ」の肯定割合は44.1%(昨年度42.3%)と低い、「学校の宿題は自分のためになっている」の肯定割合は86.9%(昨年度92.8%)と高い。

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は74.4%(昨年度75.9%)であり市や県と比べて8ポイント以上高いが、「A-D層の差」が25%と大きい。

○「難しい問題にであうとよりやる気がでる」の肯定割合は48%(昨年度45.6%)であり市や県と比べて8ポイント高いが、「A-D層の差」が32.2%と極めて大きい。

・「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定割合は33.3%であり市や県と比べて高くなっている。「A-D層の差」は60.7%となっている。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定割合は53.6%であった。昨年度の64.9%と比べて大きく下回った。

○「授業を集中して受けている」の肯定割合は93.7%(昨年度93.3%)で市や県と比べて3~4ポイント高い。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定割合は63.1%(昨年度59.6%)であった。

○●「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定割合は69.1%であり市や県と比べて3~5ポイント高いが、昨年度の78.3%を大きく下回った。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定割合は39.2%と低かった。昨年度の48.1%を大きく下回った。

○「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定割合は91.4%(昨年度92.8%)と市や県と比べて5~7ポイント高い。

○「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合は83.3%(昨年度81.7%)であり市や県と比べて5ポイント以上高い。

●市の平均より5~10ポイント低い項目が「授業では授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」86.5%(昨年度90.9%)、「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」48.4%(昨年度64.4%)、「授業で扱うノートには学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」68.2%であった。

○「学校のきまりを守っている」の肯定割合は95.5%(昨年度90.4%)と高かった。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は60.4%であり、昨年度の69.2%を大きく下回った。「A-D層の差」は20.5%と大きい。

○「家で学校の授業の予習をしている」の肯定割合は65.9%(昨年度66.8%)であり市や県と比べて20ポイント以上高くなっている。「A-D層の差」は28.6%と大きかった。

●「家で学校の授業の復習をしている」の肯定割合は63.7%であり市や県と比べて3~6ポイント低い。昨年度の70.2%も大きく下回った。

●「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定割合は63.5%と低く、「A-D層の差」は32.1%と極めて大きい。更に昨年度の71.7%を下回っている。

○●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は60.1%であり市や県と比べて3~5ポイント以上高い。「A-D層の差」は21.5%と大きい。昨年度の70.2%を大きく下回った。

●上記以外で昨年度との差が大きい項目(市や県と比べても数ポイント低い)

「家の人と学校のでできごとについて話をしている」88%→74.9%

「将来の夢や目標をもっている」84.7%→71.3%

「自分にはよいところがあると思う」83.6%→67.3%

「授業で分からないところがあると先生に聞くことができる」73.1%→62.8%

★生徒に「できた」「できる」という達成感を味あわせる授業を工夫し、生徒が輝ける場所にする。

授業の目標をしっかり示し、授業の最後のふり返り活動を充実させる。

宿題の内容や出し方については、各教科で連携する。

予習をする生徒の割合に比べ、復習やテストの間違え直しをする生徒の割合が低い。特に、C層D層の生徒に対して、復習を中心とする家庭学習を個々にアドバイスしていきたい。

テレビやゲーム・スマホについては、学校便りや保護者会等で保護者への啓発活動を行い、理解と協力をさらに求めたい。